

事務事業評価

平成26年度

担当課 しまばら観光おもてなし課

基本事項	事務事業名	湧水城下町おもてなし事業					整理番号	1502	
	根拠法令等				実施を義務付ける規定		○あり	○なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第5章 「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる	予算科目	7款1項3目	事業区分	市民サービス事業	○継続	○新規	
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	島原ならではの観光コンテンツが不足しており、滞在時間も短く、市内観光消費額が低い。					計画期間	始期 平成26年度から	
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	島原市内を訪れる観光客の満足度向上と市内滞在時間の延長を図り、市内観光消費額の向上に繋げたい。					終期 平成27年度まで		
	目的達成のための具体的手段・方法	市内と熊本港案内所に案内人を配置し、観光客への案内業務や島原の持つ湧水城下町イメージを活用した各種有料体験プログラムの開発及びインストラクションを行う。							
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)			単位	24年度	25年度	26年度	
		①かんざらし体験参加者			目標	人			2700
		②宝探しイベント参加者			実績	人			
		③かんざらし体験実施日			達成率	%			0.0
		④宝探しイベントの開発			目標	人			2400
	活動指標 (目的達成のために行った活動実績)	①かんざらし体験実施日			実績	人			0.0
		②宝探しイベントの開発			達成率	%			250
③かんざらし体験実施日			目標	日					
④宝探しイベントの開発			実績	日					
⑤かんざらし体験実施日			達成率	個			1		
事業費等の推移	年度区分	22年度 実績値	23年度 実績値	24年度 実績値	25年度 実績値	26年度 予算	27年度 計画		
	①直接事業費(千円)				10,423	13,518	13,518		
	財源内訳	国県支出金			10,423	5,392	5,392		
		地方債							
		その他				0	0		
		一般財源	0	0	0	8,126	8,126		
		②従事職員給与費 $b_1 \times b_2$	0	0	0	0	0		
		従事職員数(人) b_1	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
		職員平均人件費 b_2	7,168	7,236	7,277	7,213	7,317		
		事業費合計 ① + ②	0	0	0	10,423	13,518	13,518	

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 緊急雇用創出事業を活用し実施してきた事業内容を検証し、必要性を見極めた結果、観光案内所でのおもてなし、調理体験など、島原の魅力を発信する素材として継続実施。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできるか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 現在、島原温泉観光協会への補助事業として実施しているが、事業収益を委託事業としている。将来的には事業の引き継ぎも可能と想定される。	C
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 当市への観光誘客並びに滞在時間の延長を目的として実施。体験型観光の素材として定着している。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 調理体験については、今年度から有料化したため無料の時より利用実績は下回っているものの、懇切丁寧な対応により、利用者の感動・喜びに繋がっている。	B
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 適宜、事業効果を検証しながら改善していく。 調理体験については、1人体制での対応を検討し実施しているが、利用者増を目指し、周知等を含め改善を図っている。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 調理体験については、今年度から、サービスの対価として体験料を設定している。周知等を図ることにより、利用者増を見込める。	B
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 今年度から、熊本港の案内人は、より多くの利用者が見込まれる週末に限定して配置するよう変更を行った。(やり方は様々ある。)	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 大手門番の案内業務は、観光ボランティアガイドとの協働により実施。(週2日を担当) 事業実施を通じ、改善出来ることがないか常に検証を行っていく。	B
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 観光客の増加・滞在時間の延長が地域経済の活性化につながるため、より多くの観光客の来訪を誘引することに引き続き努める。体験料の設定については、状況を見ながら判断したい。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	B
			判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算
			2.20

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	<p>● A 継続実施(特段の見直しは行わない) ● B 改善・見直しを行う ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止(隔年実施などへの変更) ○ D 廃止(終期の設定等を含む)</p> <p>（実施上の課題） 事業内容の改善などを常におこなっていく。 観光客の滞在時間延長の手段として、有料参加型の「周遊型宝探し」を7月から実施予定。</p>
今後の課題及び改善策、見直しの状況	判断理由 観光案内所への案内人の配置により、観光客の求める情報の提供や心に響くおもてなしにより、観光客の満足度を高め、観光の充実感を高めている。 調理体験については、今年度から有料化したため、今後の状況をみながら、料金設定等を含め改善に努めたいく。

・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。
 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 ⇒ その他の見直し
備考	イベントの有料化など、事業に対する取り組みについては一定の評価ができる。事業の終期までに、施設の入場料を設定するなど、収益の確保を図りつつ、他団体に引き継ぐための体制整備を図られたい。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況			
① <input checked="" type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減	
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)		△ 27 (千円)